年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　2022 年 4 月 14 日
● 事　業　名　：　CLD 青少年のための市民性教育プログラム
● 資金分配団体　：　公益財団法人　日本国際交流センター
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人　アレッセ高岡
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑ 有　☐無

①　実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
1.　市民性教育講座の実施	①参加者数	①参加者　：200（2020 年度、2021 年度）、400（2022 年度）（年間延べ人数）	毎年年度末	延べ 197 人（2021 年度）	2
	②講座の実施数	②実施数：5 回（2020 年度）、9 回（2021 年度）、12 回（2022 年各年度）なお、不就学児童生徒の取り込み	毎年年度末	②実施数：9 回	2
2.　SDGs フォーラムの実施	①エントリー数	①エントリー数：10 組（2020 年度）、20 組（2022 年度）	2021 年 3 月 2022 年 2 月	2021 年度は該当なし	4

	②フォーラム参加者数	②フォーラム参加者：150 名（2020 年度）、200 名（2022 年度）	2021 年 3 月 2022 年 2 月	2021 年度は該当なし	4
3. フィルムフェスティバルの実施	①映画制作ワークショップ参加者数	①ワークショップ参加者数：10 名以上	2022 年 3 月	ワークショップ参加者数：10 名	2
	②映画祭参加者数	②映画祭参加者：200 名	2022 年 4 月	2022 年度 6 月実施予定	4
4. 各種事業の運営・参画（青年部）	①参加者数	①青年部第 1 期メンバー：10 名参加	2023 年 3 月	当期参加メンバー9 名	3
	②従事時間数	②従事時間数：1 名あたり 10 時間以上	2023 年 3 月	1 名あたり最大 10 時間/1 年	2
5. 学習・進学支援プログラムの実施	①登録者数（対面学習支援教室）	①登録者数の増加（40 名）及び不就学児童の取り込み	毎年年度末	21 年度生徒数 28 名（前年度±0） うち、不就学児童 0 名、不登校児童生徒 5 名	3
	②従事時間数（対面学習支援教室）	②従事時間数:月 26 時間	毎年年度末	月平均 19.6 時間、総時間数 236 時間	3
	③進路状況	③進路状況：本人が希望する進路の実現	毎年年度末	2022 年度入試受験生計 13 名うち合格者 12 名（合格者 12 名全員が第一志望校合格） （1 名は受験前に母国に	1

				帰国）	
	④ICT 活用支援参加人数（オンライン学習支援）	④1 年間の延べ人数：2020 年度 300 人、2021 年度 500 人、2022 年度 800 人（1 人 1 回 2 時間で週 2 回実施）	毎年年度末	延べ 372 人（2021 年度）	3
6.　進学・就職説明会・相談会の実施	①参加者数	①参加者数の増加（60 名）及び不就学児童の取り込み	毎年年度末	コロナ感染拡大防止のため、進学説明会のみオンデマンド動画配信で実施。YouTube チャンネルにて多言語動画（英語・日本語・ウルドゥー語・ポルトガル語・中国語）を公開。視聴数は 80 回。	4
	②実施数	②実施数：年 3 回	毎年年度末	1 回	3

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況

A：変更項目

☑ 変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値

3. 活動に関する報告

1. 市民性教育講座の実施について

下半期は、10 月 2 日に迫田公介監督をお迎えしての映画「君がいる、いた、そんな時」（フィリピンルーツの少年が主人公）鑑賞＆ディスカッションのワークショップ（参加者 27 名）、11 月 21 日に名嶋義直・琉球大教授をお迎えしてのキャリアデザインセミナー（参加者 23 名）＆ワークショップ（参加者 24 名）、1 月 8 日にアレッセ青年部主催の「新年に夢を語ろう」会（参加者 15 名）、1 月 29 日に多言語絵本の読書＆チラシ作成ワークショップ（参加者 12 名）、3 月 19 日にブラジルの青春映画「彼の見つめる先に」（全盲の思春期の若者が主人公。LGBTQ など多様性がテーマ）鑑賞ワークショップ（参加者 15 名）の 6 つ（※キャリアデザインのセミナーとワークショップを別のイベントとしてカウント）のイベントを実施した。アンケート結果からは、「今日のイベントはいかがでしたか」平均 4.2（「全然よくなかった」1)「とてもよかった」5）と、参加者にとって満足度の高い内容となっていることが窺えるが、普段アレッセの学習支援教室に通っている生徒たちの参加率があまり高くなく（CLD 青少年参加者平均 3.2 人）、イベント疲れしている様子も窺える。CLD 青少年が「参加したい」と思えるようなコンテンツや企画等も含めて自主的に参加できるような仕掛け作りなど、見直しを進め、アレッセを基軸として地域住民を巻き込んだ（市民性の醸成につながる）ムーブメントを起こし、地域の活性化につなげていきたい。

3. フィルムフェスティバルの実施について

富山県内の全高校（1-2 年生）および高岡市内の全中学校に参加者募集のチラシを配布し、定員 10 名のところ 22 名の申し込みがあった。抽選で選ばれた外国ルーツ 5 名と外国にルーツのない日本人 5 名の計 10 名が 1 つのチームとなって、3 月 26-28 日の 3 日間に渡ってプロの映像制作集団「空族」・「スタジオ石」の講師の下、短編映画の制作に取り組んだ。一つの映画作品を作る中で、積極的に意見を言い、行動し、異なる相手を尊重する姿が見られ、参加者に大きな変化があった。参加者の宗教的事情で台本を再検討することもあったが、むしろそのプロセスを経て作品をよりよくしていこうという空気が生まれ、実現できた。映画制作を通して参加者の間に絆が生まれ、アンケートには、裏方等様々な立場に思いを馳せたり、自身の中の障壁を突破した経験、将来への展望・意欲についてのコメントが見られた。イベントの満足度を問うアンケート項目の回答では、満足度 1～5 のうち参加者全員が最高値の「5」と評価。他者と共に明るい未来を築く地域

の多文化共生の芽がこのワークショップで生まれたと考える。

4. 青年部の運営・参画および 6. 進学・就職説明会・相談会の実施について

当初は 9 名参加メンバーがおり、イベントへの参加や、進学・就職説明会実施へ向けてのミーティングを数回実施。青年部への参加の意思表示があったのは 11 名。うち 1 回目 MTG への参加は 9 名。2 回目以降は各自の都合等により、MTG への参加は減った。11 月実施の進学説明会に関してはコロナ感染拡大防止のため、2020 年度に引き続き 5 ヶ国語の動画を作成し Youtube にて公開。外国ルーツの先輩と交流しながら経験談や質問等に先輩が答えるイベントを企画していたが、青年部メンバーの参加が見込めず、イベントの企画を中止。代わりに、1 月 8 日対面教室の休憩時間に新年に夢を語る会を実施。青年部メンバー2 名と学習支援講師、アレッセ高岡の生徒が、将来の夢や目標、経験談などを語る会となった。映画制作 WS には 3 名の青年部がサポーターとして参加した。青年部の運営について、これまでは自分たちのやりたいことというよりは、既に計画されたイベント等の手伝いという形での参加が多かったため、意識改革という意味も含め今後はメンバーで話し合う機会を設けつつメンバー同士の交流を図り、アレッセからやって欲しいことだけでなく、自分たちのできること、やりたいことを共に模索し、活動へのコミットメントを高める。進学説明会は、コロナ感染状況にも配慮しながら今後は対面での実施を検討していく。

就職相談会については、コロナ感染対策の観点から、今年度も昨年度に引き続き人を集めて一斉に説明する形では行わず、個別に相談に乗る形で実施した。相談件数は 1 件のみであったが、家族滞在から定住者への在留資格の変更と就職活動に関してサポートを行い、結果として就労制限のない在留資格への変更ができ、安定した日本での生活を送ることができるようになり、後日「先生たちのサポートのおかげ」と感謝の言葉が述べられた。

5. 学習・進学支援プログラムの実施について

2021 年度の学習支援教室参加者数（生徒）は、対面が 28 名、オンラインが 10 名であった（高校生 10 名、既卒 4 名、中学生 18 名、小学生（オンラインのみ）6 名）。うち、8 名が 22 年度高校入試受験にチャレンジし、帰国した 1 名を除き全員が志望校への合格を果たした。卒業・進学おめでとうパーティーでは、通訳やデザイナーなどの将来の夢に向かって高校でも頑張りたいという抱負が語られ、保護者からは支援者への感謝の言葉が寄せられた。

対面学習支援教室の通室者数は、年間を通して 28 名とコロナの影響か昨年に引き続きやや少ない人数にとどまった。近隣でコロナ感染者数が増えた際には対面教室を閉鎖しオンライン教室へ誘導することもあったが、昨年度に比べればそれに伴う混乱は少なく、学習者も対

面かオンラインかを自分の適性に合わせて選ぶ姿が見られた。1 月からはオンライン教室で実施していた学習者の毎回の目標設定や自己評価、支援者からの観点別評価などを対面教室でも取り入れ、学習者も支援者も日々の学習・指導を意識化し、個々の課題を明確化するよう工夫した。特に受験生については、受験が近づくことで取り組む姿勢が変化してきたことが記録によっても視覚化され、毎回の授業をつなげて各自の学習の課題を乗り越えていく道筋が見えるようになったことが、受験での良い結果につながったのではないかと推測している。

オンライン学習支援教室については、ウィズコロナになってきてから、部活や家族の都合で休むことが時にあるが、学習者の平均出席率は前期に続き高かった。受験生の受講者は本人の目指した地元の名門高専に進学でき、一定の学習効果も得られている様子。一方、受講生は小学校 2 年生から高校生まで幅広く、事前に学習内容を伝えてもらえない状況であるため、支援者への負担が重かった。今後、学習者・保護者の声やコメントを HP などの形で、支援者やより多くの方に、支援者が CLD 青少年の成長に貢献していることを、伝えていきたいと考えている。

6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

・対面学習支援教室にアクリルパネルを設置し、消毒液や除菌シート、予備マスクなどを常備した。使用した机やパネルを授業ごとに除菌シートで拭くなど、飛沫・接触感染の予防を徹底した。

・非接触式の電子体温計により都度体温を計測するなど、対面学習支援教室や各種イベント会場で参加者の事前の体調確認を行なった。

・近隣地域においてコロナ警戒ステージが上昇したり新規感染者数が急増したりした際には、対面教室を休止してオンライン教室で支援を継続した。

・オンラインで実施が可能なイベントについては、できるだけオンラインを活用し、難しい場合は地域の感染拡大状況に留意しながら、適宜延期・中止するなどの措置をとった。

・飲食や宿泊を伴うイベントは中止し、イベントの規模も会場の広さに合わせて密にならないよう、入場制限を行なった。

・フィルムフェスのように規模の大きいイベントについては、コロナ感染対策ガイドラインを別途作成し、県外からの招聘講師にイベント前 72 時間以内の PCR 検査による陰性証明、ワークショップ参加者・スタッフのイベント 5 日前からの健康チェックシートの提出等を求めた。

② 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況

☑ 自団体のウェブサイトで表示している　　☑ 広報制作物に表示している
☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他
→「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：

2.　広報

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

・2021 年 10 月 2 日　北日本新聞『日と比ルーツ少年描いた映画を上映』（概要：当法人が、映画「君がいる、いた、そんな時。」(追田公介監督)の無料上映会と、追田監督によるトークディスカッションを開く。）

・2021 年 11 月 7 日 読売新聞『外国人の子に居場所作る』（概要：石川、富山両県で外国人の児童生徒が増えている中、当法人が日本語の指導や居場所づくりに取り組んでいるとして取り上げられる。当法人理事長が、日本語指導に当たる教員が孤軍奮闘している実情を指摘。）

・2022 年 1 月 7 日 KNB ワンエフ『子どもの権利守られていると思う？』（概要：当法人の学習支援の様子を紹介。当法人理事長、元生徒、講師、生徒らがインタビューを受けた。）

・2022 年 2 月 22 日　朝日新聞デジタル『SDGsACTION すべての子どもたちに未来の希望を「多文化共生社会を目指す教育支援」とは。「オンラインでホッとできる居場所」』https://www.asahi.com/sdgs/article/14543195（概要：住友商事「１００SEED」は JCIE と連携し「外国ルーツの子どもたち」をサポートする当団体を紹介。また、伴奏支援として当団体の運営基盤の強化支援や、学習支援教室の生徒たちに対する学習支援などに携わる。）

・2022 年 3 月 25 日　北日本新聞『多様性理解へ映画製作　（アレッセ高岡）6 月公開』http://webun.jp/item/7837111（概要：当法人が企画した、フィルムフェスティバルを紹介。）

・2022 年 3 月 27 日　富山新聞『外国ルーツ　高校生、映画に挑戦（高岡で制作ワークショップ)』（概要：同上）

・2022 年 3 月 27 日　北日本新聞『短編映画の製作開始　高岡、海外ルーツの高校生参加』http://webun.jp/item/7837756（概要：当法人が企画したフィルムフェスティバルに、外国ルーツの高校生と日本人の高校生の計 10 人が参加し、短編映画の制作をスタートさせた。）

2.広報制作物等

・2021 年 10 月 2 日開催　映画上映会・トーク＆ディスカッション『「君がいる、いた、そんな時」』　チラシ１，５００部

・2021 年度下期ポスター　４００部
・2021 年 10 月～11 月　高校進学説明会（https://www.alece.org/schooladmissionproject（概要：中学生の子達やその親のために高校進学説明会を開催しているがコロナウイルスの感染拡大により進学説明を動画で紹介。）
・2021 年 11 月 21 日開催　「キャリアデザイン・セミナー＆ワークショップ『なりたい自分』になるために～自分のキャリアをデザインする～」名嶋義直氏（琉球大学)」チラシ７０００部
・2021 年 11 月 30 日　進学説明会　チラシ８００部
・2022 年 3 月 26 日～28 日開催　フィルムフェスティバル　参加者＆支援者募集　チラシ２３，０００部
・2022 年 3 月 31 日動画化　アレッセ高岡　防災チャレンジ（概要：新聞紙でスリッパ作りに挑戦する。）
・アレッセ高岡ホームページ更新 https://www.alece.org/
・Facebook 更新 https://www.facebook.com/alecetakaoka
・Instagram 更新 https://www.instagram.com/alece.takaoka/
・Twitter 更新 https://twitter.com/alecetakaoka
・YouTube チャンネル更新 https://youtu.be/OdJ0WBv_LvY

3.報告書等　　該当なし

4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）
・2021 年 10 月 2 日　映画鑑賞ワークショップ「『君がいる、いた、そんな時』映画上映＆トーク・ディスカッション」（概要：迫田公介監督と参加者が映画の題名をテーマにディスカッションを行う。）参加人数：18 名（うち CLD 青少年 5 名）
・2021 年 11 月 21 日　キャリアデザイン・セミナー＆w ワークショップ「『なりたい自分』になるために　～自分のキャリアをデザインする～」第 1 部セミナー（オンライン＋会場)、第 2 部ワークショップ（会場）（概要：名嶋義直氏《琉球大学グローバル教育支援機構教授）どんな人間になりたいか。将来を考えるステップやそれが仕事として結び付けて考える。子自分のセカンドキャリアを考えるきっかけ作り。）参加者人数：セミナー15 名（ZOOM 参加者 3 名）（うち CLD 青少年 1 名)、ワークショップ 14 名（うち CLD 青少年 2 名）

・2022 年 1 月 8 日　「新年に夢を語ろう会」（概要：外国ルーツの先輩と学習支援講師、生徒が将来の夢や目標について語り合う。）参加人数：15 名（うち CLD 青少年 5 名）
・2022 年 1 月 29 日　青少年向けワークショップ「絵本のチラシを作ろう！」（概要：中川正臣氏（城西国際大学）・石原弘子（多言語絵本の会 RAINBOW）同年代の青少年および大学生と協力し合い、絵本の宣伝用チラシ作成を通じて、多様な見方・感じ方があることや絵本という表現媒体の可能性に気づく。）参加人数：23 名（うち CLD 青少年 2 名）
・2022 年 2 月 20 日　防災ワークショップ「bousai『非常食にトライ！』～自分ができる備えとは。いざというときのために～」コロナ感染拡大により中止。プログラムの一部動画化「新聞紙でスリッパ作り」（概要：新聞紙でスリッパづくりを紹介し作成に挑戦する。）参加人数：10 名（うち CLD 青少年 3 名）
・2022 年 3 月 19 日　映画鑑賞ワークショップ『彼の見つめる先に』」（概要：ブラジルの映画『彼の見つめる先に』の鑑賞を行う。映画を通して、青春期にある若者の葛藤に共感し、背景にある障害や LGBTQ、いじめなどについて考える。）参加人数：15 名（うち CLD 青少年 4 名）
・2022 年 3 月 26 日～28 日　アレッセフィルムフェスティバル「映画製作ワークショップ“フィウミ・コロリド”第一弾」（概要：映画制作集団「空族（くぞく）」とタッグを組み、人種・国籍・言語・文化・宗教など多様なバックグラウンドを持つ青少年が一緒に表現したい内容を考え、協働し短編映画を制作する。）対象参加数：10 名（うち CLD 青少年 5 名）

④規程類の整備に関する報告

1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑ 完了　　☐整備中
2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☐全て公開した　☑ 一部未公開　☐未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日： 次回の通常総会の後、新役員の了承を得て公開予定、公開予定日：5 月下旬

3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
☑ はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑ はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい　　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☐内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☑ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☐はい　　☑ いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：利益相反防止のための委員会をまだ立ち上げていない。今後委員会を検討したい。現在利益相反に該当するような取引は皆無であり、適切に帳簿を管理している。利益相反になるような事例があった場合は、速やかに監事に連絡するよう体制ができている。
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑ はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☐はい　　☑ いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：コンプライアンス委員をまだ決めていない。担当理事を選任したので、今後コンプライアンス委員を検討し、定期的なコンプライアンス委員会の開催をする予定である。

6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑ 内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

 対面学習支援教室の様子	 2021 年 10 月 2 日映画鑑賞ワークショップの様子

2021 年 11 月 21 日 キャリアデザイン・ワークショップの様子

2022 年 3 月 26 日 フィルムフェスティバルの様子